

サクラがさいたよ

大和高田市にある「大中こうえん」には、おおくのサクラがうえられています。春にはこうえんがサクラの花でうめつくされ、「高田の千本さくら」として、おおくの人がお花見をたのしみます。けれど、ふゆの「大中こうえん」のサクラには、花びらどころか、はっぱもほとんどありません。たくさんうえられているサクラが、冬のつめたいかぜにゆらされて、さむさでふるえて いるようでした。



冬のこうえん

ちいちゃんの学校では、三がっきのひる休みに、ぜん校でなわとびのれんしゅうをしています。ちいちゃんのもくひょうは、二じゅうとびです。ところが、なんどやってもうまくできません。ちいちゃんは、まい日、学校からかえると、お母さんと いっしょに「大中こうえん」でひみつのとっくんをしていました。
トントントン、ヒュンヒュッ。
バチツ。

「いたっ。」

なわが、あしに あたり、ちいちゃんはあまりのいたさに しゃがみこみました。「やっぱり できない。ずっと がんばっているのに。」

そんなちいちゃんを見て、おかあさんは言いました。

「ちいちゃん。サクラの えだをよく 見てごらん。」

えだの さきを見てみると、ふつくらとした ちやいろの つぼみ、うすみどりの つぼみが たくさん ありました。

「うすいピンクの つぼみもある。もうすぐさくのかな。」

「サクラは冬のあいだ、はっぱもなく、じつとねむっているみたいでしょ。けれどね、春に花を さかせるために、すこしずつ せいちょう しているのよ。それとね、花がさく

時期も、つぼみによって、ちよっとはやかたりちよっとおそかったり、ちがうんだよ。」

ちいちゃんは、もういちど つぼみたちを見上げました。

「おかあさん。サクラのつぼみは、じぶんがいつさくのか、わかるのかなあ。」

「どうだろう。いつさくかはわからないけど、きつときれいな花がさくとしん



サクラのつぼみ

じて、さむさにたえてがんばっているんじゃないかな。ちいちゃんのニじゅうとびの花も、きつとさくわよ。」

お母さんは、ニコツとわらって言いました。ちいちゃんは、まわりのサクラを見ながら、なわのもち手をぎゅつとにぎりしめました。

(さくのをしんじてがんばるか。)

トーントントン、ヒュン。

トントントン、ヒュッ、バチッ。

ちいちゃんは、なんどもなんどもとびました。そろそろあたりがくらくらなくなってきました。こうえんにはちいちゃんとおかあさんしかいません。

「ちいちゃん。もうくらくらくなってきたから、つぎはあしたにしよう。」

「あと一かいだけ。あと一かいだけ。つぎでおわりにするから。」

ちいちゃんは、しっかりなわをもって、こころの中でかけ声こゑをかけます。

(せえのっ。)

トントントン、ヒュヒュン。

(とべた?もういちど。)

トントントン、ヒュヒュンッ、ヒュヒュンッ、ヒュヒュンッ。



春のこうえん

「あっ。とべた!」

「ちいちゃん。やったね。すごいね。とべたじゃない。」

お母さんがかけよって、ちいちゃんをぎゅつとだきしめました。

「やったあ。わたしにもできたよ。ニじゅうとびの花がさいたよ。」

○ お母さんにだきしめられたちいちゃんは、どんなことをかんがえていたでしょう。

○ あきらめずにさいごまでとりくんでよかったと思ったことはありますか。また、これからがんばっていききたいことはどんなことですか。